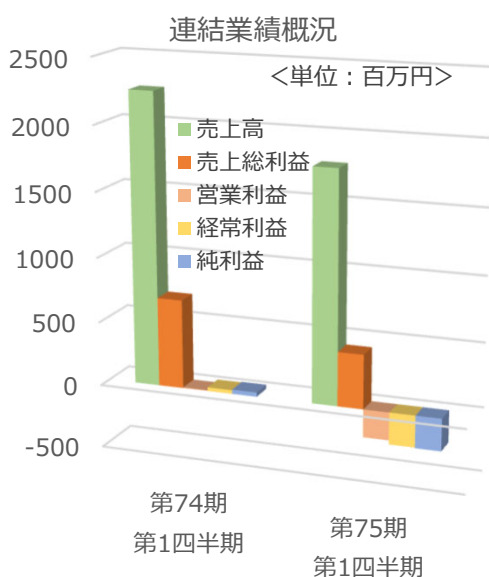


令和2年3月期 第75期 業績概要 第1四半期

桂川電機株式会社

当第1四半期連結累計期間（平成31年4月～令和元年6月）における当社グループの業績は、カラー機は競合他社との競争激化の影響等を受け、モノクロ機やパーツ・消耗品もプリンターのカラー化やペーパーレスへの移行などが影響し、前年度の売上げを下回り、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、17億80百万円（前連結会計年度は22億51百万円）となりました。原価低減に向け、生産工程における効率化や、材料調達コストの削減等、経費節減に努めておりますものの減収の影響が大きく、営業損益は4億21百万円の営業損失（前連結会計年度は6百万円の営業利益）、経常損益は営業外費用に為替差損43百万円を計上したこと等により2億48百万円の経常損失（前連結会計年度は29百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する当期純損益は2億52百万円の親会社株主に帰属する当期純損失（前連結会計年度は33百万円の親会社株主に帰属する当期純利益）という結果となりました。



<単位：百万円>

項目	第74期 第1四半期	第75期 第1四半期
売上高	2,251	1,780
売上総利益	689	421
営業損益	6	△217
経常損益	29	△248
親会社株主に 帰属する 当期純損益	33	△252

大型カラープリンターのラインナップ充実とモノクロ機の代替対応として、生産・出荷準備を進めております、大判型カラープリンターの新製品KIP600シリーズの出荷準備もほぼ整い、近日中に発売を予定しております。

従来の大判型カラープリンターと比べ、普及機タイプとして安定した品質とコスト競争力を備えた新製品として、これからの業績に貢献する事と期待しております。

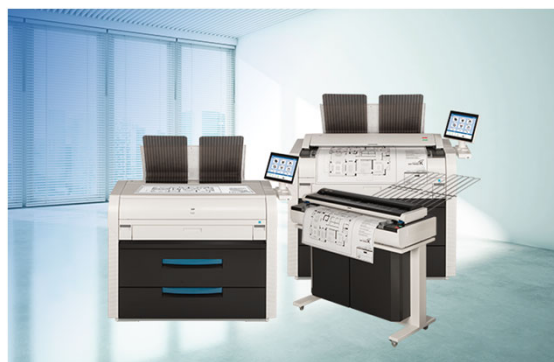


新製品 KIP600シリーズ

また、大判型プリンターのラインナップとしまして、カラーモデルでは、KIP800シリーズ／KIP900シリーズ、モノクロモデルとしてKIP7170／KIP75シリーズ／KIP79シリーズと、普及機から高速・高生産性の機種まで充実したラインナップで潜在的な顧客層に対する大判型プリンターニーズを掘り起こすための活動を展開し、売上向上を目指しております。



カラーモデル高生産性機種
KIP900シリーズ



モノクロの中速モデル
KIP75シリーズ

さらに、今後成長が見込める新たな分野として、当社新開発の粉体染料トナーと当社が長年培ってきたワイドフォーマット電子写真技術を使用した高速デジタル昇華転写プリンター KIP EST 480および昇華捺染システムは、 Apparel業界において依然として主流である従来からのシルクスクリーン印刷や近年増えつつあるインクジェット方式による昇華捺染に対し、圧倒的な生産効率と作業環境の改善が得られ業界に変革をもたらすことと確信をしております。

また、食器やタイルなどセラミック用途向けデカールプリンター KIP DDP 480 は、昨年10月よりアジア・中国地区に製品の出荷を開始しており、今後は業界への本製品浸透と拡販を継続して参ります。

KIP EST 480、KIP DDP 480ともに、従来手法による生産手法が主流である業界に、最新のデジタル技術を取り入れ当社新開発の粉体トナーを用いたワイドフォーマットプリンターは、それぞれの業界において変革をもたらすものと確信しており、当社の主要な製品群のひとつとなり、業績に貢献するように更なる開発と普及に努めてまいります。



高速デジタル昇華転写プリンター KIP EST 480 と昇華捺染システムで作成されたスポーツユニフォーム



KIP DDP 480 と KIP DDP 480 で印刷されたデカールで加工されたセラミックタイル

KIP EST 480システムのご紹介動画

<http://www.kiphq.co.jp/movie/kipest480.html>

KIP DDP 480システムのご紹介動画

<http://www.kiphq.co.jp/movie/kipddp480.html>

新製品の市場投入等、市場の潜在的な顧客層に対する大判型カラープリンターニーズを掘り起こすための活動を継続し、製品生産体制の効率化、更なるコストダウン、経費等の改善による業績の挽回に注力してまいります。